

「福島の叫びを聞く会」要項

1. 主 催 核燃サイクル立地反対連絡会議

2. 企画の趣旨

- 1) 「来て見てほしい！私たちを忘れないでほしい！」という福島県民の要望に応える。
- 2) 現地との意見交換会、懇親会を通して住民の要求を聞き取る。
- 3) 帰還困難区域の各地を訪問して福島の現状を知る。
- 4) 以上の活動を通し、福島と連帯して脱原発・核燃の運動を発展させる。

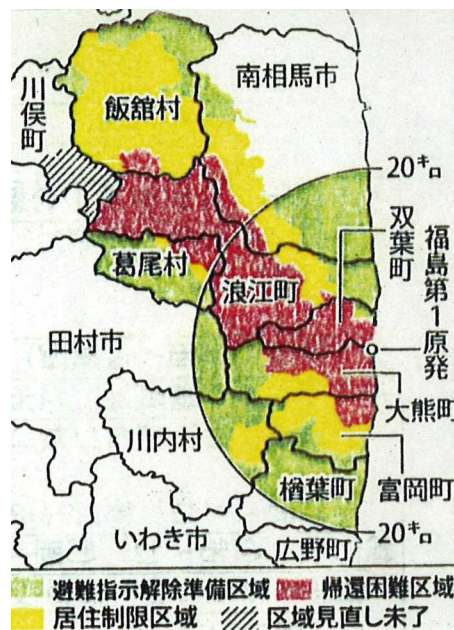
3. 日 程

9月22日(日)

- 10:00 県教育会館 出発
- 17:30 南相馬市 到着
- 18:00 現地との意見交換会
- 19:30 引き続き懇親会

9月23日(月)

- 07:00 ホテル発
南相馬市、浪江町、双葉町境界視察（詳細裏面）
- 13:30 現地出発
- 20:00 県教育会館着



4. 移動・宿泊

- ・マイクロバス40人乗り
- ・ホテル伊勢屋 (0244-22-2722)

5. 経 費

- ・宿泊費 5,500 円、懇親会費 4,000 円
- ・移動経費を合わせて、合計一人2万円を超えない範囲とする（参加が増えると経費が減る）

6. 参加申し込み

参加申し込みは必要事項を記入し、下記のメールに返信または青森高教組に FAX をお願いします。

参加申し込み書			
氏 名	性	携帯 or 自宅番号	住 所

〒030-0823 青森市橋本一丁目2番25号 教育会館 青森高教組気付

TEL 017-734-7287 FAX 017-775-4221

核燃サイクル立地反対連絡会議 事務局長 谷崎嘉治

メール Bernard_1813_1878_1972@yahoo.co.jp

9月23日の視察の場所（予定）

ホテル伊勢屋

南相馬市小高区 村上

75戸があった集落。62名の方が津波で犠牲に。

中央にある館ノ山に登った方は助かったが、孤立し翌日ヘリコプターで救出された。

小高区 井田川

昭和5年に初めて水稲が作付された
海拔 - 0.5 ~ - 0.7m干拓地。

宮田川の海口開門を閉じたまま避難を強要され、「原発水害」が拡大した地域。大量のテトラポットが、津波前の住宅地や水田に流されている。

浪江町 請戸

第1原発から、6.5 km。 450戸の漁港を中心とした集落があった。

3月12日早朝に避難を強要され、家族の捜索がかなわなかった方が裁判闘争中。

浪江町と双葉町の境界

第1原発から4.5 km地点。

遠望できる双葉町役場は、第1原発から3.2 km。双葉町は、原発頼りのりっぱな箱もの町政の末、財政破たん。7、8号機増設の誘致運動をしていた。

浪江町 中心市街地

JR常磐線の西側は「居住制限区域」「帰還困難区域」。第1原発から北西23 kmの馬場續浪江町議の自宅は、1 m Sv/年に下がるまで、180年間を要する。

(時間に余裕があれば) 小高区 大悲山磨崖仏

平安時代に造られたといわれている「日本三大磨崖仏」の一つ。

震災前は中秋の名月の日に「月明かりコンサート」が、催されていた。

小高区 中心市街地

1611年まで相馬氏の居城があった城下町。現在の市街地は、城ができた当時は失態であったため、「浮舟城」の別名がある。地盤が良くないために、倒壊家屋が多い。

憲法学者「鈴木安蔵」氏生誕の地。

デマンド交通システム「乗合タクシー」誕生の町。

2つの県立高校があり、小高駅からの通学に使っていた自転車は2年半放置されたまま（他区の高校に通う生徒も含む。）。